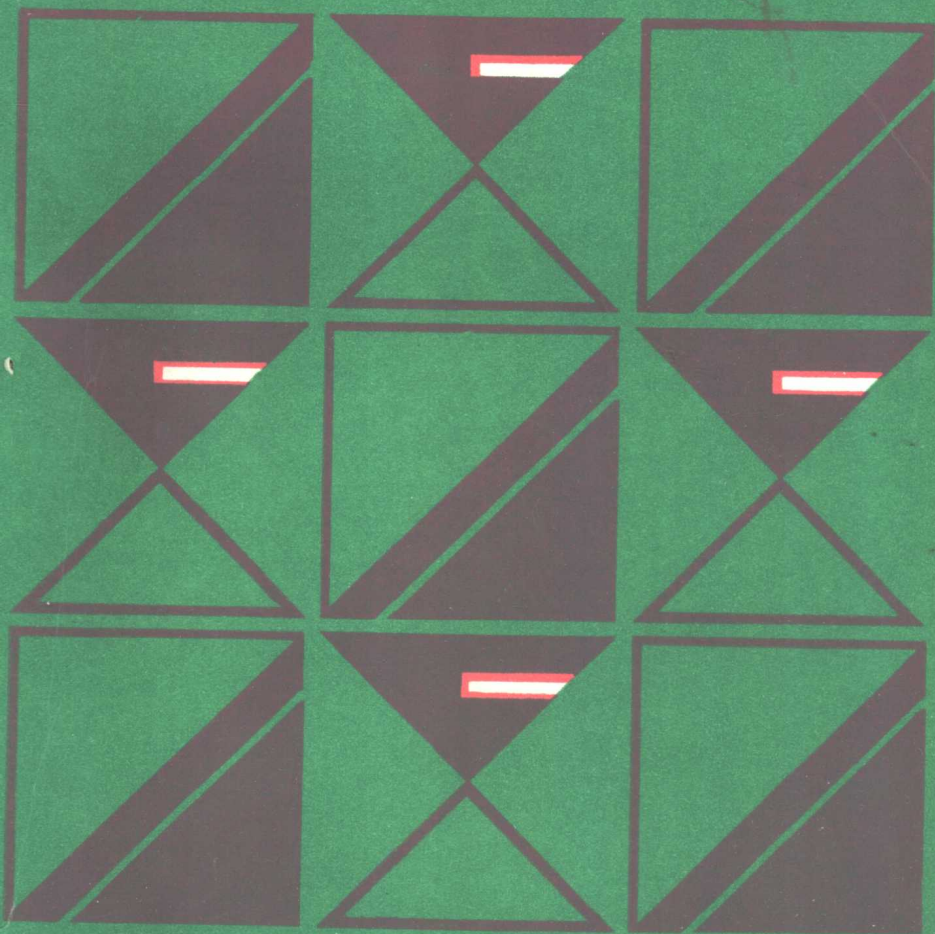


日语学习文选

第五集



商务印书馆

日 语 学 习 文 选

(第 五 集)

商 务 印 书 馆

1984年·北京

内 容 提 要

本文选是以日语专业二、三年级以上的学生或具有同等学力的自修者为对象，以精读为目的的日汉对照注释读物。本集共选短篇文章六篇，大都是日本当代著名作家的作品。其中有芥川龙之介的《杜子春》、永井龙男的《黑饭》、椎名麟三的《一份不幸的报告》、星新一的《羽衣》、菊池宽的《父归》和井伏鱒二的《黑雨》。这些文章都是日本高等国语教科书上选用的教材，语言规范、生动活泼，适于作精读材料。每篇文章前都加了作者和作品简介，正文采用日汉对排的方式，并加注释，日文汉字全部注音，以便于对照阅读。

RÌ Yǔ XUE XÍ WÉN XUǎN

日 语 学 习 文 选

(第五集)

高烈夫等译注

商 务 印 书 馆 出 版

(北京王府井大街36号)

新华书店北京发行所发行

六 〇 三 厂 印 刷

统一书号：9017·1352

1984年1月第1版

开本 787×1092 1/32

1984年1月 第1次印刷

字数 123千

印数 15,500册

印张 6 1/2

定价 0.70元

目 次

一、《杜子春》	芥川龍之介（高烈夫译注）……………	2
二、《黒い御飯》	永井龍男（高烈夫译注）……………	44
三、《ある不幸な報告書》	椎名麟三（高烈夫译注）……………	60
四、《羽衣》	星新一（高烈夫译注）……………	108
五、《父帰る》	菊池寛（含英译注）……………	126
六、《黒い雨》	井伏鱒二（力卫、顾人译注）……………	164

と し しゅん 杜 子 春

あくとがわりゅうのすけ
芥川龍之介

高烈夫 译注

一

ある春の日暮れです。

唐の都洛陽の西の門の下に、ぼんやり空を仰いでいる、
ひとりの若者がありました。

若者は、名は杜子春^{と し しゅん} といって、もとは金持ちのめすこで
したが、いまは財産を費い尽くして①、その日の暮らしにも
困るくらい、哀れな身分になっているのです。

なにしろ、そのころ洛陽^{らくよう}といえば、天下に並ぶもののな
い②、繁盛^{はんじょう}をきわめた都^{みやこ}ですから、往來にはまだしきり
なく③、人や車^{くるま}が通^{とお}っていました。門^{もん}いっぱいにあたっ
ている油^{あぶら}のような夕日^{ゆうひ}の光^{ひかり}の中に、老人^{ろうじん}のかぶった紗^しの帽^{ぼう}
子^しや、トルコのおんなの金の耳輪^{みみわ}や、白馬^{しろうま}に飾^{かざ}った色糸^{いろいと}の手綱^{たづな}
が絶えず流れていく様子は、まるで絵^えのような美しさで
す。

〔作者簡介〕 芥川龍之介(1892—1927)小説家。東京人。東京大学英文系
卒業。他在大学学习期間、与久米正雄、菊池寛等人第三次、第四次复刊《新思
潮》。1916年发表《鼻子》，受到夏目漱石的赞赏，登上文坛。

芥川是新思潮派文学的代表作家。他的著名短篇小说有《罗生门》《芋粥》
《地狱变》《戏作三昧》《河童》等。此外还写了许多小品、随笔、文艺评论等。

杜 子 春

一

一个春天的傍晚。

在唐都洛阳的西门下面有一个青年呆呆地仰视着天空。

这个青年名叫杜子春，原来是一个财主的儿子，可是由于他荡尽家财，落得个连当天的生活都感到困难的可怜境地。

那时提起洛阳，可真是一个举世无双、繁华至极的都城，大街上车来人往，络绎不绝。好象油一般的夕阳洒满城门，在这夕阳余辉之中，头戴纱帽的老人，戴着金耳环的土耳其妇女，装饰着彩线缰绳的白马不断地从这里经过。这情景宛如一幅美丽的图画。

《杜子春》发表于1920年7月的《红鸟》。本文选自《芥川龙之介全集，第一卷》（春阳堂，1966年）。文章通过对杜子春的描写，告诫人们，真正的幸福是靠自己辛勤劳动才能获得。①〔費い尽くす〕用光、荡尽。尽くす：接在动词连用形后面起补助动词的作用，意思是“尽，完”。②〔天下に並ぶものない〕天下没有并列的或举世无双的。もの：形式体言，作主语成分。の：格助词，代替了主格助词が。整个句节在此作连体修饰语，修饰后面的体言“都”。③〔しっきりなく〕是“しっきりなし”的连用形，意为：接连不断。“しきりなしに”是副词。意为：不间断地，不停地。它和“ひききりなしに”混用。“ひききりなし”是“ひききりなし”的促音变。“ひききりなし”是文语形容词。现在把“ひききりなし”看作形容动词，把“ひききりなしに”用作副词。

しかし、杜子春^{とししゅん}はあいかわらず、門^{もん}の壁^{かべ}に身^みをもたせて、
ぼんやり空^{そら}ばかりながめていました。空^{そら}には、もう細^{ほそ}い月^{つき}
が、うらうらとなびいたかすみの中^{なか}に、まるでつめのあとか
と思うほど、かすかに白^{しろ}く浮^うかんでいるのです。

「日は暮^ひれるし、腹^{はら}は減^へるし、そのうえ、もうどこへ行^いって
も泊^とめてくれるところはなさそうだし、——こんな思^{おも}いを
して生^いきているくらいなら、いっそ川^{かわ}へでも身^みを投^なげて、死^し
んでしまったほうがましかもしれない④」

杜子春^{とししゅん}はひとりさっきから、こんなとりとめもない⑤こ
とを思^{おも}いめぐらしていたのです。

すると、どこからやって来^きたか、突然^{とつぜん}かれの前^{まえ}へ足^{あし}をとめ
た、片目^{かため}すがめ⑥の老^{ろうじん}人^{じん}があります。それが、夕日^{ゆうひ}の光^{ひかり}
をあびて、大^{おお}きな影^{かげ}を門^{もん}へ落^おとすと、じっと杜子春^{とししゅん}の顔^{かお}を見
ながら、

「おまえは何^{なに}を考^{かんが}えているのだ」と、おうへいにことばを
かけました。

「わたしですか。わたしは今夜^{こんや}寝^ねるところもないので、ど
うしたものかと考^{かんが}えているのです」

老^{ろうじん}人^{じん}の尋^{たず}ね方^{かた}が急^{きゅう}でしたから、杜子春^{とししゅん}はさすがに目^め
を伏^ふせて、おもわず正^{しょうじき}直^{ちか}な答^{こた}えをしました。

「そうか。それはかわいそうだな」

老^{ろうじん}人^{じん}はしばらくなにごとか考^{かんが}えているようでしたが、や

④[…くらいなら…ほうがましかもしれない]慣用型、意思是“与其……
还不如……(好)”。⑤[とりとめもない]とりとめ:“とりとめる”的名词形,意

可是杜子春依然靠在城门的墙壁上，茫然地凝视着天空。在晴朗的天空里，月牙儿好象指甲掐的痕迹一般，已经浮现于随风起伏的暮霭之中。

“天色已晚，腹内空空，再说，无论到哪儿去好象也没有自己的投宿之处……受这样的熬煎，可真是与其活着，也许还不如投河死了的好。”

杜子春从方才起始，独自反复考虑一些不着边际的事情。

这时，不知从哪儿来了一位偏盲老人，突然站在他的面前。这位老人沐浴着夕阳的余辉，高大的身影映在城门上。他盯盯地望着杜子春的脸，高慢地说道：“你在想什么呢？”

由于老人问得很急，杜子春垂下眼睛，不由得坦率地回答说：“我……？我今天晚上连住宿的地方都没有，我正在想应该怎么办呢？”

“是嘛！那可太可怜了啊！”

老人好象思考什么事情似的，过了一会儿，用手指着照射在行路上的夕照说道：“那么，我教给你一个好办法吧。你现

思是“确定”“归纳得很清楚”。も：提示助词，在这里顶替了“が”。常用的形式是“とりとめの(か)ない”，可译为“不着边际”“不得要领”。⑥〔片目すがめ〕偏盲。片目：一只眼。すがめ：偏盲。

がて、往来にさしている夕日の光を指さしながら、
「では、おれがいいことを一つ教えてやろう。いまこの夕
日の中に立って、おまえの影が地に映ったら、その頭にあ
たるところを夜なかに掘ってみるがいい。きっと車に
いっぱいのお金が埋まっているはずだから」

「ほんとうですか」

杜子春は驚いて、伏せていた目をあげました。ところ
が、さらに不思議なことには、あの老人はどこへいったか、
もうあたりにはそれらしい⑦影も形も見あたりません。
そのかわり、空の月は、まえよりもなお白くなって、休
みない往来の人通りの上には、もう気の早い⑧コウモリが
二、三匹ひらひら舞っていました。

二

杜子春は一日のうちに、洛陽の都でもただひとりとい
う⑨大金持ちになりました。あの老人のことばどおり、夕
日に影を映してみても、その頭にあたるところを、夜なかに
そっと掘ってみたら、大きな車にも余るくらい、黄金がひ
と山出てきたのです。

大金持ちになった杜子春は、すぐにりっぱなうちを買っ
て、玄宗皇帝にも負けないくらいぜいたくな暮らしをしは
じめました。蘭陵の酒を買わせるやら、桂州の竜眼肉を

⑦〔それらしい〕らしい：推量助動詞。意思是：象……，似乎……。それ指老
人，“それらしい”按字面意思是：“象老人那样的”。⑧〔気の早い〕词组，意思

在去站在夕阳里，如果影子映在地面上，半夜时你把头部照出影子的地方挖一下看看就可以。那里一定会有满满的一车黄金。”

“真的吗？”

杜子春惊奇地把低垂着的眼睛抬了起来。可是，更奇怪的是，那位老人已不知去向，周边也不见其踪影。但是，空中的月色比先前更加皎洁，在大道上络绎不绝的行人的头上，两只提早出来的蝙蝠已经飘然飞起。

二

杜子春按照老人说的那样，去看夕阳照出来的身影，半夜悄悄地把头部照出影子的地方挖开一看，里面果然有一大堆黄金，多得连一大车都装不下。于是，杜子春在一天之内就变成洛阳都城里独一无二的大财主了。

变成大财主的杜子春，马上购置房屋，开始过上不亚于唐玄宗皇帝的生活。他购买兰陵美酒，令人寄送桂州龙眼肉，庭

是：性急的，是「コウモリ」的连体修饰语。の在此处代替了主格助词が。 ⑩「ただひとりという」独一无二的。是「大金持」的连体修饰语。

とよ 取り寄せるやら、日^ひに四^よたび色^{いろ}の変わるボタンを庭^{にわ}に植^うえ
させるやら、白^{しろ}クジャクを何^{なん}羽^ばも放^{はな}し飼^がいにするやら、玉^{たま}を
集^{あつ}めるやら、にしきを縫^ぬわせるやら、香^{かう}木^{ぼく}の車^{くるま}を作^{つく}らせる
やら、象^{ぞう}牙^げのイスをあつらえるやら、そのぜいたくをい^いち^ち
ち書^かいていては、いつになってもこの話^{はなし}がおしまいになら
ないくらいです。

すると、こ^こうい^いうわ^わさを聞^きいて、いままでは道^{みち}で行^ゆき
合^あってもあいさつさえしなかつた友^{とも}だちなどが、朝^{あさ}夕^ゆ遊^{あそ}びに
や^きつて来^きました。それ^いち^ちも一日^{いちにち}ごとに数^{かず}が増^まして、半^{はん}年^{とし}ばか
りたつうちには、洛^{らく}陽^{よう}の都^{みやこ}に名^なを知^しられた才^{さい}子^しや美^び人^{じん}が多^{おほ}
い中^{なか}で、杜^と子^し春^{しゅん}のう^こちへ来^きないものは、ひとりもないくら
いになつてしまつたのです。杜^と子^し春^{しゅん}はこのお客^{きやく}たちを相^{あい}
手^てに、毎^{まい}日^{にち}酒^{さか}盛^{かも}りを開^{ひら}きました。その酒^{さか}盛^{かも}りのまた盛^{さか}んな
ことは、な^{くち}かなか口^{くち}には尽^つくされません。ごくかいつまん
だだけをお話^{はなし}ししても、杜^と子^し春^{しゅん}が金^{きん}の杯^{さかずき}に西^{せい}洋^{よう}から来^きた
ブドウ^{しゅう}酒^{しゅ}をくんで、天^{てん}竺^{じく}生^{かう}まれの魔^ま法^{ほう}使^{つか}いが刀^{かたな}をのんで
み^{げい}せる芸^みに見^にとれてい^にると、そのまわりには二^に十^{じゅう}人^{にん}の女^{おんな}
たち^{じゅうにん}が、十^ひ人^{すい}は翡^{はな}翠^{じゅうにん}のハス^めの花^うを、十^{はな}人^{かみ}は瑪^{かざ}瑙^{ふえ}のボタ^{こと}ンの
花^{ふし}を、い^{そう}ずれも髪^{かみ}に飾^{かざ}りなが^{ふえ}ら、笛^{ふえ}や琴^{こと}を節^{ふし}おもしろく奏^{そう}
してい^{そう}うというけしきなのです。

しかし、い^おくら大^お金^{かね}持^もちでも、お金^{かいげん}には際^{さい}限^{げん}があ^ありますか
ら、さ^とすがにぜいたくやの杜^と子^し春^{しゅん}も、一^{いち}年^{ねん}二^に年^{ねん}とたつうち
には、だ^{びん}だ^{ぼう}ん貧^{ひん}乏^{ぼう}になりだしました。そうすると、人^{にん}間^{げん}は
薄^{はく}情^{じょう}なもので、き^{まい}のう^にま^ちで毎^{まい}日^{にち}来^きた友^{とも}だちも、き^きょうは門^{もん}

院里种植日变四色的牡丹花，饲养数只白孔雀，蒐集玉石，缝织锦绣，作制香木车，定做象牙椅，如果把这些奢华情况一一写出来，这个故事将无尽无休。

于是，听到这个风闻之后，那些过去在街上碰见时连个头都不点的朋友们，全都朝夕不离门庭。这些客人与日俱增，不到半年，洛阳城里知名的才子佳人差不多全都到杜子春家中来过。杜子春陪伴这些宾客，每天都大摆酒宴。比这酒宴更豪华的场面，那真是用言语都难以形容。极其扼要地说，诸如，杜子春用金杯斟满西洋的葡萄酒，观看天竺魔术师的吞刀表演，周围有二十名女子，全都是盛装打扮，十人头戴翡翠的莲花，十人头戴玛瑙的牡丹花。她们吹起笛子弹起琴，奏出优美的曲调。

但是，不管多么富有，金钱总有花光用尽的时候，就连这样奢华的杜子春经过一两年的时间，也逐渐贫穷起来了。这样一来，由于人们是冷酷无情的，甚至到昨天为止还是每日来访的朋友，而今天从门前经过的时候，连问都不来问候一声。

の前まえを通とおってさえ、あいさつひとつ⑩していきません。まして、とうとう三年さんねんめの春はる、また杜子春とししゅんが以前いぜんのとおり一文もんなし⑪になつてみると、広い洛陽らくやうの都みやこの中なかにも、かれに宿やどを貸かそうといううちは、一軒いっけんもなくなつてしまいました。いや、宿やどを貸かすどころか⑫、今では腕うでに一杯いっぱいの水みずも、恵めぐんでくれるものはないのです。

そこで、かれはある日ひの夕ゆうがた、もう一度あの洛陽らくやうの西にしの門もんの下したへ行いって。ぼんやり空そらをながめながら、途方とほうにくれて⑬立たっていました。すると、やはり昔むかしのように、片目かためずがめろうじんの老人にがどこからか姿すがたな現あらわして。

「おまえは何なにを考かんがえているのだ」と、声こえをかけるではありませんか。

杜子春とししゅんは老人ろうじんの顔かおを見ると、恥はずかしそうに下したを向むいたまま、しばらくは返事へんじもしませんでした。が、老人ろうじんはその日ひも親切しんせつそうに、同じことばを繰くり返かえしますから、こちらもまゑと同じように、「わたしは今夜こんや寝ねるところもないので、どうしたものかと考かんがえているのです」と、おそろおそろ返事へんじをしました。

「そうか。それはかわいそうだな。では、おれがいいことひと一つおし教おしえてやろう。いまこの夕日ゆうひの中なかへ立たって、おまえの影かげが地ちに映うつたら、その胸むねにあたるところを、夜よなかに掘ほってみるがいい。きつと車くるまにいっばいの黄金おうごんが埋うずまっ

⑩〔ひとつ〕接在体言后面，加强语气。 ⑪〔一文なし〕一文不名，分文皆无。 ⑫〔どころか〕接续助词，别说……（就连）。不但……（反倒） ⑬〔途方

后来，到了第三年的春天，杜子春又和从前一样，穷得一文不名。此时，在偌大的洛阳都城，肯让他借宿一宵的房屋，连一间都没有。不，别说借宿，现在就连肯施给他一杯水的人都没有。

因此，某日傍晚，他又一次来到洛阳的西门下，茫然地望着天空，毫无办法地站在那里。于是，依然和上次一样，那位偏盲的老人不知从哪儿又出现在他的面前。

老人招呼他说道：“你在想什么呢？”

杜子春一看老人的脸，感到有些羞愧，把头低下来，半晌没有答出话来。可是，老人又和当天一样，亲切地重复同样的话语。因此，杜子春又和上次相同，惟恭惟谨地答道：

“因为我今夜连个睡觉的地方都没有，正在考虑该怎么办呢？”

“是嘛！那太可怜啦！那么，我教给你一个好办法吧。现在你去站在夕阳里，如果你的影子照在地上，等到半夜时你把胸部照出影子的地方挖一下就行。那里将会埋着满满一车

にくれる〕词组，表示想不出好办法，不知如何是好而感到困难的情况。可译为“没有办法可想”“不知如何是好”。

ているはずだから」

老人ろうじんはこういっおもたと思おもうと⑭、こんどもまた人込みの中へ、かき消けすように隠かくれてしまいました。

杜子春としゅんはその翌日よくじつから、たちまち天下第一てんかだいいちの大金持ちおおかねもに返かえりました。と同時に、あいかわらず、しほうだいなぜいたくをしはじめました。庭に咲さいているボタンの花はな、その中なかに眠ねむっている白クジャクしろ、それから刀かたなをのんでみせる天竺てんじくから来きた魔法使まほうつかい——すべてが昔むかしのとおりたのです。

ですから、車くるまにいっばいあったあのおびたらしい黄金おうごんも、また三年ばかりたつうちには。すっかりなくなってしまうさんねんしました。

三

「おまえは何なにを考かんがえているのだ」

片目かためすがめの老人ろうじんは、三たび杜子春としゅんの前まえへ来きて、同じおなこととを問といかけました。もちろん、かれはその時ときも、洛陽らくやうの西にしの門もんの下したに、ほそぼそとかすみを破やぶっている三日月みかづきの光ひかりをながめながら、ぼんやりたたずんでいたのです。

「わたしですか。わたしは今夜こんや寝ねるところもないので、どうしようかと思おもっているのです」

「そうか。それはかわいそうだな。では、おれがいいことを教おしえてやろう。いまこの夕日ゆうひの中なかへ立たって、おまえの影かげが地ちに映うつったら、その腹はらにあたるところを、夜よなかに掘ほって

⑭〔…と思うと〕前一个“と”是格助词，表示思维的内容。后一个“と”是

黄金。”

老人刚一这样说完，这回也象上次那样，又完全隐没于杂沓的人群中。

从第二天起，杜子春又立即变成天下最富有的人。与此同时，他又照旧开始尽情的挥霍。庭院里盛开着牡丹，白孔雀宿于其间，还有来自天竺的表演吞刀技艺的魔术师——所有的一切又和从前一样。

因此，那满满一车的大量黄金，不到三年，又花得分文皆无。

三

“你在想什么？”

偏盲老人第三次来到杜子春的面前，向他问了这句同样的话。当然，那时候杜子春又是茫然地佇立在洛阳的西门下，仰望着月牙儿的亮光，那是透过朦胧的云雾刚刚能看到的新月的亮光。

“我吗？我正在想，今天夜里连个睡觉的地方都没有，这可怎么办呢？”

“是嘛，那可太可怜了啊。那么，我教给你一个好办法吧。现在你去站在夕阳里，你的影子如果映在地上，夜半时把你腹部照出影子的地方挖一下看看就可以。那里一定有满满

接续助词，接在终止形的后面，相当于汉语的“一……就”。

みるがいい。きつと車^{くるま}にいっぱい^いの——」

老人^{ろうじん}がここまで言いかけると、杜子春^{とししゅん}は急に^{きゅう}手をあげて、そのことばをさえぎりしました。

「いや、お金^{かね}はもういらな^あいのです」

「金^{かね}はもういらな^あい？ ははあ、では、ぜいたくをするには、とうとう飽^あきてしまったとみえるな」

老人^{ろうじん}はいぶかしそうな目つき^めをしながら、じつと杜子春^{とししゅん}の顔^{かお}を見つめました。

「なに、ぜいたくに飽^あきたのじゃありません^⑮。人間^{にんげん}といふものにあいそがつきた^⑯のです」

杜子春^{とししゅん}は不平^{ふへい}そうな顔^{かお}をしながら、つっけんどんにこういいました。

「それはおもしろいな。どうしてまた人間^{にんげん}にあいそがつきたのだ？」

「人間^{にんげん}はみな薄情^{はくじょう}です。わたしが大金持ち^{おおかねもち}になったときには、せじも、ついしょうもしますけれど、いったん貧乏^{びんぼう}になってごらんさい。やさしい顔^{かお}さえもして見せはしません。そんなことを考えると、たといもう一度大金持ち^{いちどおおかねもち}になったところが、なんにもならないような気がするのです」

老人^{ろうじん}は杜子春^{とししゅん}のことばを聞くと、急に^{きゅう}ににやにや笑^{わら}いだしました。

「そうか。いや、おまえは若い者^{わかもの}に似合^{にあ}わず、感心^{かんしん}にもの

⑮「ぜいたくに飽きたのじゃありません」の：形式体言。じゃ：接续助词，整